

JAあいち尾東 自己改革の取り組み

JAあいち尾東は、
「なくてはならないJA」を目指し、
役職員一丸となって
自己改革に取り組んでおります。



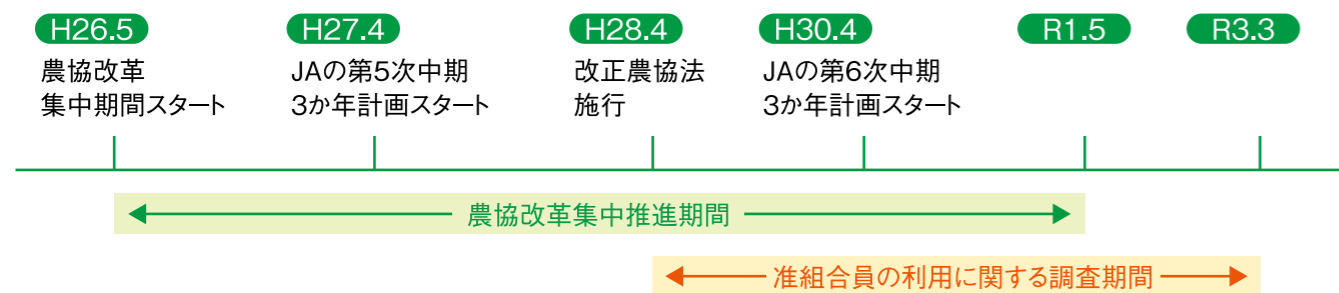
令和元年度5月作成

 JAあいち尾東

改革推進室

平成30年度から新たに第6次中期3か年計画を策定し取り組みをスタートいたしました。
第6次中期3か年計画のメインテーマを「組合員とともに自己改革全力宣言」とし、
組合員の皆様に意見・要望をお聴きしながら、自己改革の取り組みを進めております。

農協改革・自己改革の主なスケジュール



JAの総合事業

当JAは組合員の皆様とともに協同活動を通じ、
くらしや地域社会をよりよくしていくために取り組んでおります。
ここでは、協同組合や組合員・組合員組織の役割について解説いたします。

協同活動・協同組合とは

くらしに関わる、皆様が大切にしている思いや願い、あるいは困っている悩みや課題を、人と人が助け合い、力を合わせることによって実現し、解決していくことが協同活動であり、そのための人の集まり(組織)が協同組合です。

組合員の役割とは

協同組合の組合員には重要な役割があります。それは、自分たちの思いや願いを協同組合の事業や運営に反映することです(組合員自らが主体的に、協同組合の活動に関わること)。

組合員組織とは

同じ意識や関心を持つ組合員が集まることによって、より大きな成果をあげることを目的とし組織された集合体です。組合員組織には、メンバーが組織への参加・参画を通して意思を形成し、それをJAの運営に反映させること、具体的な活動として展開するところに特徴があります。

部門別損益から見るJAあいち尾東の地域農業の振興にかかる取り組み



総合事業の解説

JAの役割である地域農業振興、農業者所得向上策は、取り組みを進めると収支は厳しくなってしまう。もちろん赤字を容認するわけではなく改善を実施していますが、信用事業・共済事業等の利益によって営農関連事業や営農指導事業が成り立っています。JAがJAとしてあり続けるためには、総合事業による健全経営が必須となっています。

信用事業	正組合員・准組合員・地域の皆様からお預かりしている貯金などによって利益を得ています。
共済事業	正組合員・准組合員・地域の皆様のくらしに関するリスクに対応した様々な共済にご加入いただくことによって利益を得ています。
営農指導事業	出向く営農をはじめとした営農指導に関する事業です。
農業関連事業	ライスセンターなどの共同利用施設運営や農機具の販売等に関する事業です。
生活その他事業	グリーンセンターなどの店舗運営等、生活に密接に関わる事業です。

出向く営農指導

取り組み背景

生産者からJA職員が圃場に出向いて育成状況を確認しつつ栽培の指導や提案等についてリアルタイムな営農指導を求める声が多くありました。



営農の職員(12名)が生産者の圃場等に直接出向いて営農指導を行い、栽培する農作物や栽培指導、情報提供(病虫害情報など)等を行っています。

出向く営農指導内容

- 定植時期や追肥の時期等の指導
- 端境期に出荷できるよう、収穫時期をずらした栽培や品種の提案・指導
- 土壌や品種に適した低価格な肥料の紹介
- 特産品プチヴェールや新野菜等の栽培提案・指導
- 生産者をグループ化し長期収穫に向けた栽培計画づくり
- 生産履歴記帳、農薬適正使用指導、GAP(農業生産工程管理)の指導



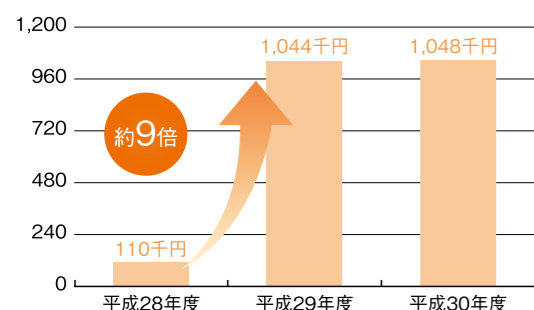
事例

平成29年度より、アレッタ・トムロコシの栽培拡大を開始しました。栽培体系や出荷規格等を生産者に提案して出荷量を増やし、産直施設やインショップ等に供給しています。

アレッタの取り組み

- 平成30年4月 栽培計画会議
- 平成30年6月 栽培講習会
- 平成30年10、12月 圃場での講習会(出荷規格の検討等)、各地域で目揃え会実施

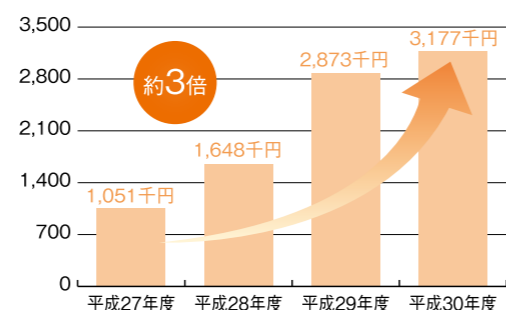
販売実績



トムロコシの取り組み

- 平成29年12月 栽培計画会議
- 平成30年 6月 目揃え会、圃場審査
- 平成30年 7月 生産者が対面販売企画実施

販売実績



各生産部会への支援

当JA生産部会への研修等を通じ、栽培や出荷に向けた支援を実施しています。

主な実施内容

いちご部会

- 平成28年に部会を設立し、良質ないちごを栽培するため、いちご苗、肥料、農薬、バンカーシート等の注文を取りまとめて提供しています。



部会設立までは各生産者が個々に注文していた生産資材を部会設立とともに取りまとめ高ロット発注することにより、生産者に提供する生産資材の単価が安くなりました。

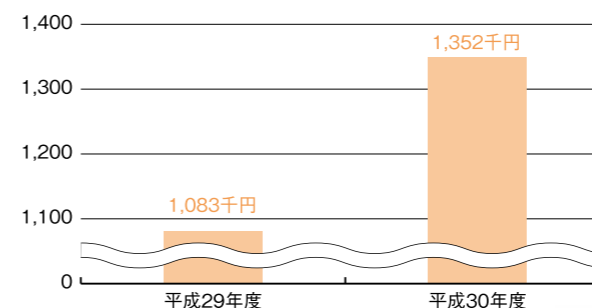
- 苗管理方法や有望品種についての研修会の開催や新技術・新品種に取り組みやすくするために、部会全体で試験栽培・研究に取り組んでいます。



平成30年に新品種「星の煌めき」の試験栽培・研究を行いました。令和元年作で本格栽培・出荷を行う予定です。※「星の煌めき」は果実のそろいがよく、色・艶の優れた品種でコクと適度な酸味が特徴です。

いちご部会に対する支援を行うことで出荷実績が増加しました。

いちごの出荷実績



その他各部会に対しても研修会や講習会等を行い、支援に努めています。

新規就農者の育成や支援

女性のアグリスクール開校

産直出荷者の育成を目的として平成29年度から女性のアグリスクールを開校しました。現在は、初級と中級の2コースを開催しています。また、中級コースのアグリスクール受講生が生産した農作物を産直市等に出荷し、販売しています。

販売高

116千円 (平成30年度実績)



小売り業者などへの取引拡大

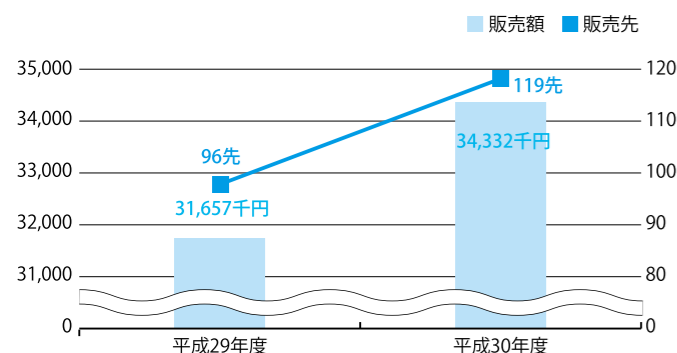
取り組み背景

農産物出荷に向けた営農指導を強化するとともに、これまで農産物の販売機会については産直施設や学校給食、市場出荷をメインとしていましたが、更なる販路拡大に取り組みました。

販売推進課による販路拡大

平成29年度に販売推進課を設置し管内飲食店や病院・施設等に農産物の販売を行い販路拡大に取り組んでいます。

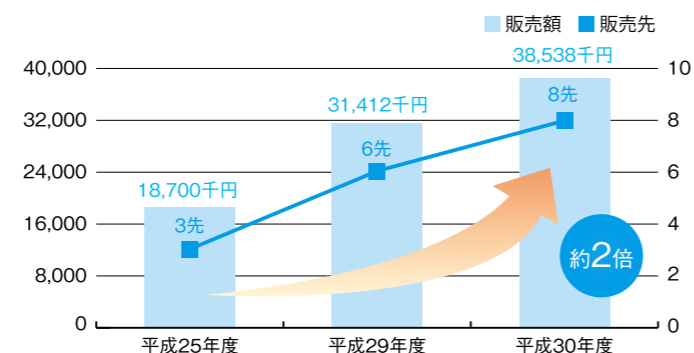
新規販路先数・販売額



インショップによる販売

当JAの産直施設だけでなく、コープあいちやプライムツリー赤池(イトーヨーカ堂)、マックスバリュ、平和堂等にもインショップを設け産直品を販売しています。

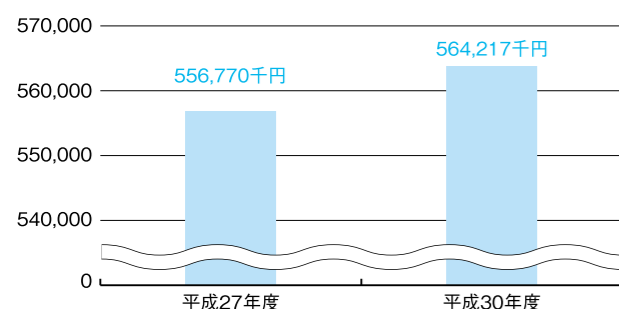
インショップ先数・販売額



産直施設などでの販売拡大

地産地消を促進するため、各グリーンセンター等にて食育ソムリエによる旬の農産物を使った試食やレシピ提案を実施し、地元農産物のPRと販売促進に取り組んでいます。

産直品販売金額



飲食店への仲介販売

平成30年度から農産物を洋菓子店等へ供給する仲介販売を実施しています。洋菓子店から供給依頼があった、マスカットロールに使用するシャインマスカットや、いちじくパフェ・いちごのロールケーキに使用するいちじくやいちごを各生産者と出荷調整を行い供給しています。

供給金額

356千円 (平成30年度実績)



農畜産物の加工など6次産業化への取り組み

取り組み背景

出荷できない規格外品や廃棄品を商品化する6次産業へのニーズは高いが、生産者自身が6次産業に取り組むには費用的・施設のにも非常にハードルが高いという問題がありました。

加工所の設置

平成30年8月より瀬戸地域にある旧Aコープ山口店をJAあいち尾東農産物加工所に改装し、JAで規格外品等を買取り、ドライ製品(いちじく・巨峰・トマト)や米粉、プチヴェール粉末等の加工品の製造に取り組みました。ドライフルーツは、各グリーンセンター等にて販売しています。

規格外品買取額 1,164千円 (平成29・30年度実績)

ドライ製品販売高 1,607千円 (平成30年度実績)



生産者から加工作業を受付

生産者から加工依頼を受け加工品に製造して納品し、生産者がオリジナルブランドとして販売する加工委託作業にも取り組みました。令和元年度も生産者からの依頼を受け取り組む予定です。

受託先数

3先 (平成30年度実績)



例 生産者の石川 悟さん(東郷町)から加工依頼を受け、加工した商品(ジャム等)を納品しました。

生産資材価格の引き下げ

商品の統一

取り組み背景

これまで当JAのグリーンセンター等(8店舗)にて取り扱う生産資材はそれぞれの店舗が仕入れており、価格も店舗ごとに設定していました。

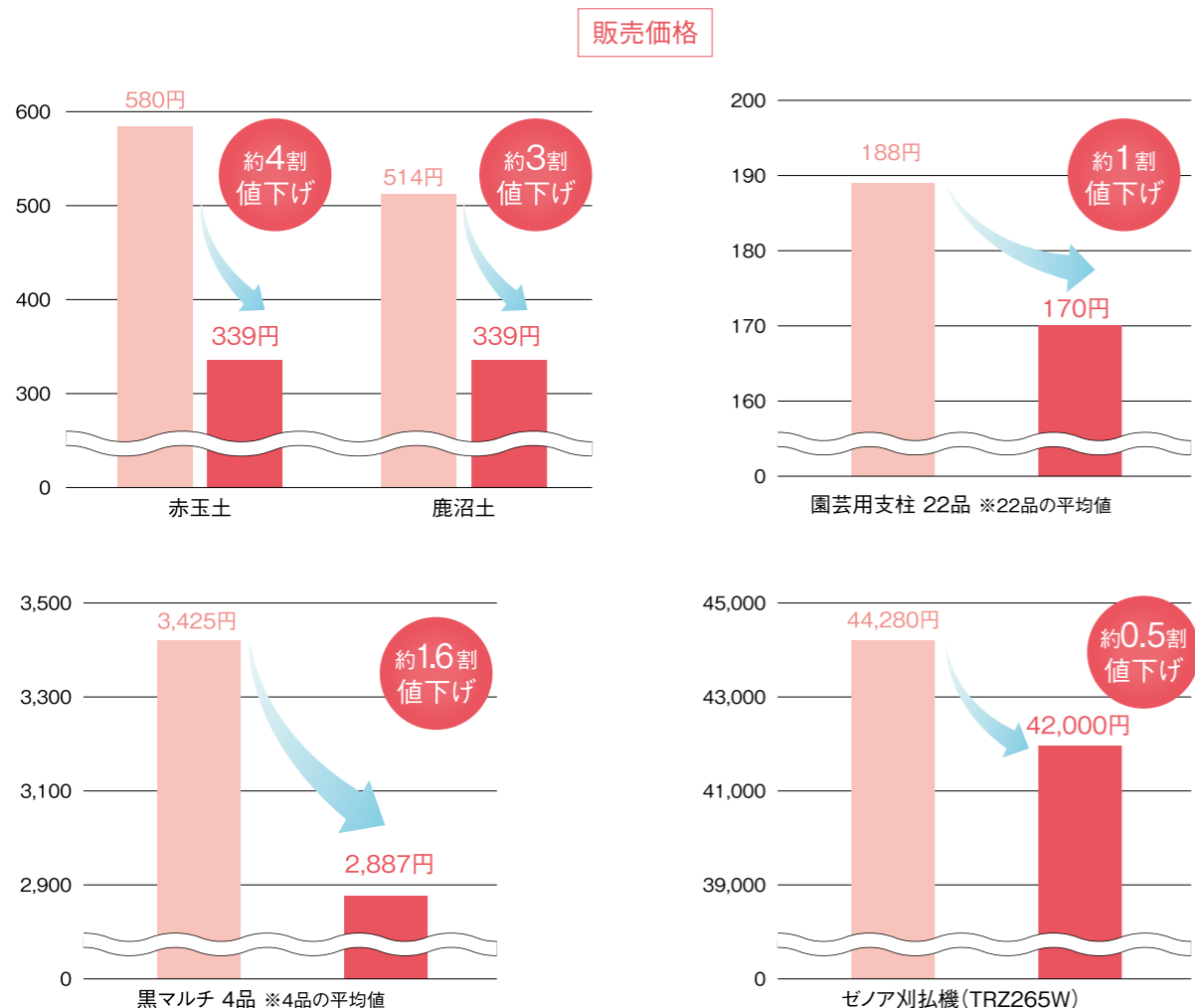
- 仕入れ先を統一し、全店統一商品とすることにより、価格低減に取り組んでいます。
- 購買店舗にて取り扱っていた園芸化成に代わるオリジナル商品を開発することにより、成分の向上および販売価格の低減を実現しました。(尾東園芸化成20kg)

価格低減累計品目数

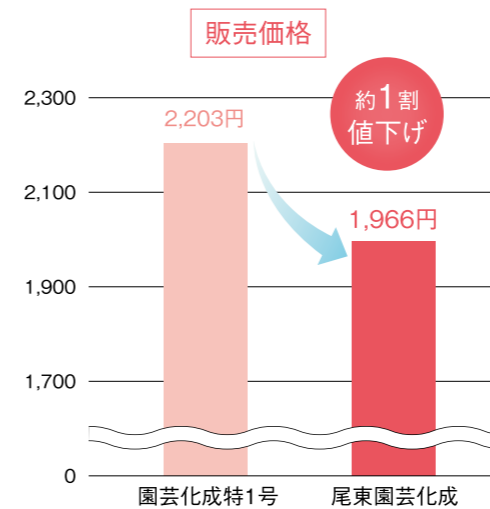
平成29年度 48品 → 平成30年度 118品 → 令和元年度目標 166品

成果例

商品統一による価格低減



オリジナル商品開発による価格低減



成分	窒素	リン酸	加里
園芸化成特1号	14	8	13
尾東園芸化成	16	8	12



鳥獣被害対策支援

取り組み背景

当JA管内でイノシシ等の鳥獣被害が年々拡大しています。

鳥獣被害を抑え、持続可能な農業環境を支えることを目的として、平成30年度に農機具等への購入助成を行いました。

品名	申込数	合計助成金額
刈払機	331	6,620千円
イノシシ用電気柵	6	260千円
害獣よけ柵	211	844千円
菜園ハウス	30	1,500千円

※平成30年6月～平成30年9月実績

農業関連施設を有効に活用

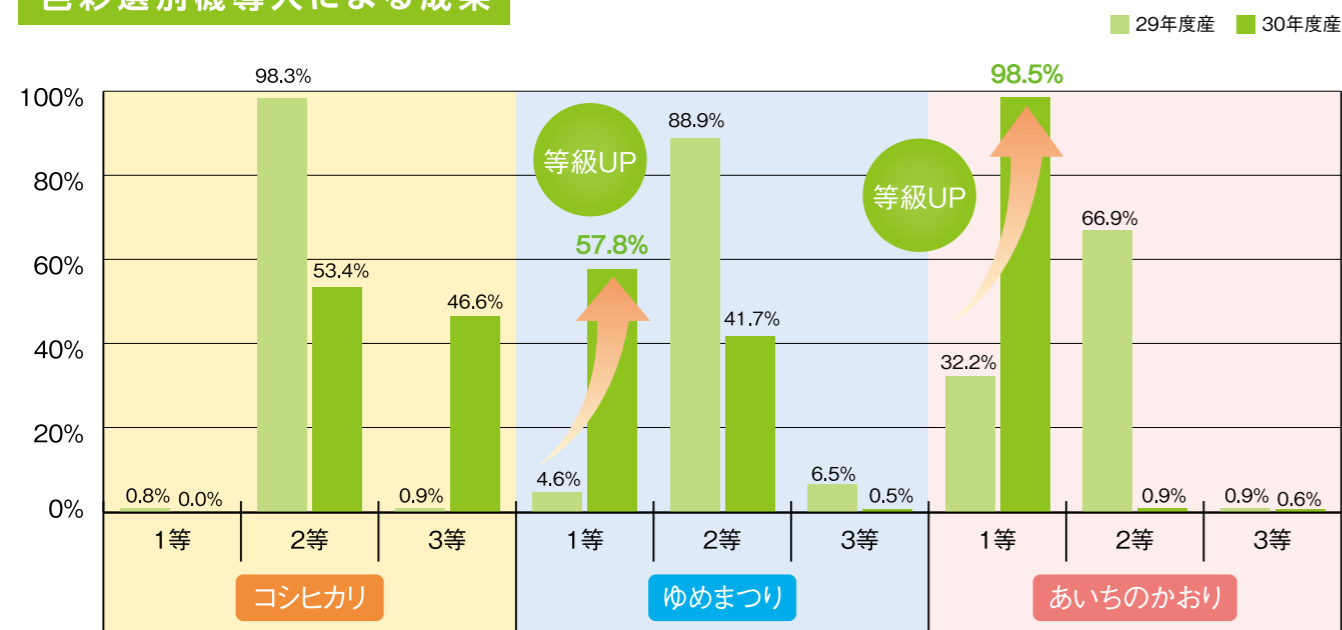
■ 中部ライスセンター建設・色彩選別機の導入

取り組み背景

既存の日進カントリーエレベーターは昭和41年に建設され老朽化が危惧されていました。近年、カメムシ等の被害による着色米や高温障害による乳白米が増加し、米の等級低下の主な原因となっており、農家一戸一戸の取り組みではカメムシ防除には限界があることから着色米の除去に対する取り組みとして共同集荷施設への玄米色彩選別機の導入が求められていました。

広域営農センター構想に基づき主食用米の中核施設として、平成30年8月に色彩選別機を導入した中部ライスセンターを建設しました。また、さらなる米の品質向上を目指し、豊明・東郷・長久手地域のライスセンターにも色彩選別機を導入し所得向上に向け取り組みしています。

色彩選別機導入による成果



※コシヒカリについては高温障害により等級が低下しましたが、色彩選別機の導入により等級外の発生を抑えることができました。

事例 色彩選別機導入で等級が上がったことにより所得向上につながりました。

※仮渡価格にて算出



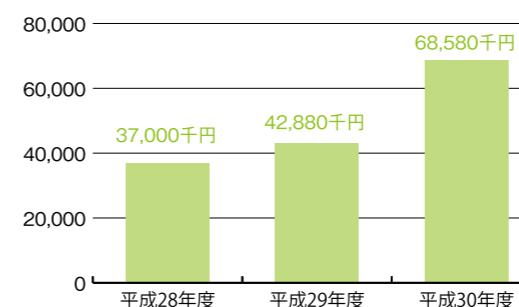
農業融資

取り組み背景

これまでは国の制度資金で対応していましたが、制度資金のみでは様々な条件があるため農業者のニーズに応えられない場面がありました。

JA独自のアグリマイティー資金にて、国の制度資金の条件に当てはまらない農業者へも融資対応を行い、農業資金の必要な農家に対してきめ細かい融資相談に取り組んでいます。

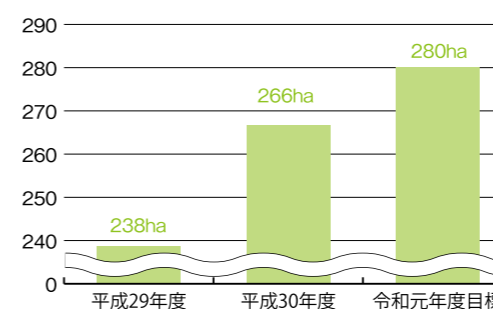
農業融資実行額



利用権設定農地面積の拡大

管内4法人(尾東北部農産、尾東農産、東郷農産、豊明アグリサービス)により地域農業の維持を目的として農地保全に努めています。

面積





いなほちゃん おにぎりくん

 **JAあいち尾東**

<http://www.jaab.or.jp/>

〒470-0122 愛知県日進市蟹甲町池下213番地1

TEL 0561-72-0033 FAX 0561-72-8151